

⑤ ゼロウェイストオフィスの創出に向けて

＜事例紹介 2＞

「ゼロウェイストビルの創出に向けて
～体験と共創による資源循環の実践～」

日鉄興和不動産株式会社

都市事業本部 運営技術部 グループリーダー 納 章太

ゼロウェイストビルの創出に向けて

～体験と共創による資源循環の実践～



日鉄興和不動産株式会社
都市事業本部 運営技術部 運営管理第一グループ
兼 企画本部 経営企画部 サステナビリティ推進室
納 章太

目指す姿と現状の課題

ゼロウェイストビルの実現には、ビルオーナーだけでなくテナント企業の主体的な取組みが不可欠

目指す姿

- ・廃棄物の発生を最小化
- ・リサイクル率が高い
- ・ごみを「資源」として扱う
- ・分別が当たり前に着
- ・廃棄物削減が根付いている
- ・資源循環が自然に行われる仕組み



現状の課題

- ・廃棄物の排出主体はテナント企業
- ・企業ごとに取組み意識が異なる
- ・分別ルールが十分に浸透していない
- ・取組みの成果を実感しづらい
- ・ルール周知だけでは浸透しない
- ・ワーカーの関心が高くない
- ・「自分ごと化」が進んでいない



当社のアプローチ

- ・テナントとの協働
- ・楽しく継続できる仕掛け
- ・体験による自分事化
- ・楽しく継続する場づくり
- ・廃棄物の見える化
- ・個人から個人、企業から企業
- ・サステナビリティの入口



主役はビルではなく「人」であり、体験を通じた共感と参加の輪を広げることで持続的な資源循環を実現する

赤坂・虎ノ門サステナブルシティコンソーシアム

サステナブルコンソーシアムのコンセプト



CO-CREATING A
SUSTAINABLE FUTURE

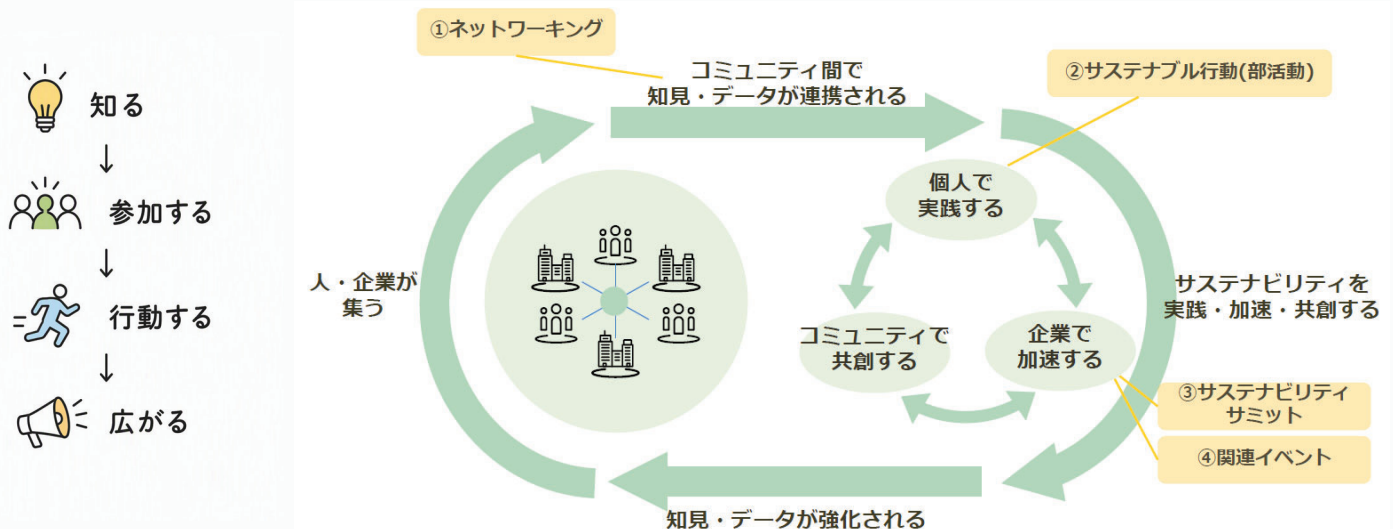
緑あふれる赤坂・虎ノ門で
企業や人が垣根を越えてつながり、
環境負荷の低減やウェルビーイングに取り組む
サステナブルな未来を共創するための
地域コンソーシアム

自発的な取組みを広げるコミュニケーション

赤坂・虎ノ門サステナブルシティコンソーシアム

ワーカーの体験を起点に、資源循環やサステナの取組みをコミュニティ全体へ広げる仕組み

ネットワーキングによるコミュニティ構築から取組み、個人レベルでの行動実践を通じて企業レベルの意識を向上させる



赤坂・虎ノ門サステナブルシティコンソーシアム

企業・ワーカーが繋がり、学びと実践を繰り返しながら、サステナの取組みを地域全体へ広げていく

ネットワーキングWG活動の全体像

会員企業による共創とサステナビリティの推進



① 会員企業間の取組・課題共有会
会員のサステナビリティ・新規事業
での取組・課題共有、意見交換等



⑤ 部活動
具現化に向けて段階的、多面的な
アプローチを行う
・グリーン・菜園部（専門企業グリーンワイス社サポート、春、秋実施）
・赤坂歴史探索部（仮）
・ランチ・well-being部（仮）
・サステナブル経済部（仮）
・清掃活動部（仮）（地域貢献、ウェルビーイング）

② セミナー・勉強会
規制等の外部環境、先進事例
関するセミナー・勉強会



③ ディスカッションイベント
上記の活動から具体的な
テーマ、ニーズができた
ところで具体化検討



④ パネル展示
コンソーシアム活動
及会員企業の
取組紹介を展示



⑥ サステナビリティ・サミット
別途企画・体制の検討が必要

赤坂・虎ノ門サステナブルシティコンソーシアム

部活動事例：グリーン・菜園部

赤坂・虎ノ門サステナブルシティコンソーシアム

グリーン・菜園部

これまでの活動

5月

コンポスト設置

菜園にてハーブの苗植え

コーヒーかず持ち寄り

6月

コンポスト切り返し

ハーブを使いキャンドル作り

キャンドルを灯す日が楽しみです！

植える→育てる→作る→語らう→広げる。小さな実践から、地域循環型モデルへ。

コンソーシアムの仲間と一緒に、
コンポストづくりとハーブの植え込みを体験する部活動

企業に持ち帰れる“サステナのネタ”をつくる！

- ・コンソーシアム会員が参加する体験型の部活動
- ・コンポストづくりやハーブの植栽を通じて資源循環を学ぶ
- ・「植える→育てる→作る→語らう→広げる」を実践
- ・生ごみの堆肥化とハーブ栽培による小さな循環モデルを体験
- ・ハーブを活用したキャンドルづくりなども実施

まずは楽しむことから！継続的に実施！
地域循環型モデルへ発展させる取組みをはじめてみる

小さな体験が、企業のサステナ活動のヒントになる

資源循環の取組み

都市と地域を巡る「めぐ葱」の展開

CIRCULAR ECONOMY — サークラーエコノミー —

① ビルから出る
食品廃棄物を
収集・運搬



⑤ ビルのイベントや
店舗でネギを活用



ビルから排出した食品廃棄物を回収し、メタン発酵→堆肥化→ネギ栽培→再びビルで活用する循環モデル



食品廃棄物由来の堆肥

北本市で栽培（ねぎ）



地域との共創が
サーキュラーエコノミーを加速させる

7

廃棄物量削減の取組み

Building 2 Bottleの取組み



自然とマイボトルを使いたくなる仕組みを提供



施設側の取組みはあるものの、利用者目線の取組みが少ない

ワーカー自ら参加できる環境行動の仕組みづくり

マイボトルを手間なく使える環境構築

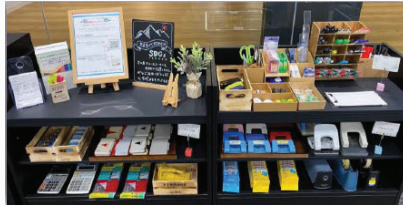


- ・マイボトルを週4日以上利用する人が40%から63%へ増加
- ・環境行動は意識啓発だけでは広がらない。
- ・「やりたくなる仕組み」「続けられる環境」が重要
- ・マイボトル利用をワーカーの新たな文化として定着させる

8

廃棄物量削減の取組み

文房具のリユース



身近な文房具から資源循環を体験できる仕組みを実現

- ・ 文房具を回収
- ・ クリーニング、動作確認しリユースコーナーに設置
- ・ 廃棄ではなく、社内資源として再活用
- ・ 廃棄物の削減と新規購入量を抑制
- ・ リユース文房具の使用回数に応じた「貢献ランキング」

社員一人ひとりが資源循環を体験し、
廃棄物削減を自分事として考えるきっかけを創出

廃棄物量削減の取組み

オフィス什器のリユース

オフィスに、新たな家具ではなく新たな循環を

セットアップオフィスや共用部リニューアルにおいて、中古のオフィス什器を採用
使用可能な什器を再利用し、廃棄物の発生を抑制するとともに、新たな製品製造に
伴う資源消費やCO₂排出の削減にも貢献

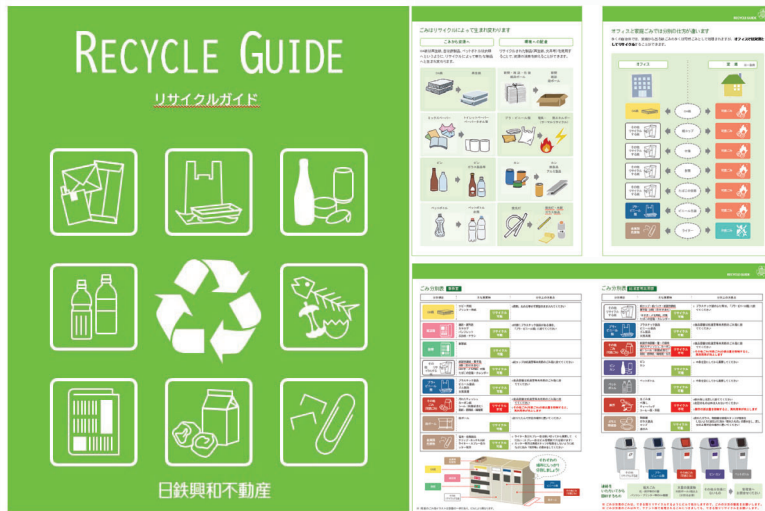
廃棄物を減らすだけでなく、「作る・使う・捨てる」から「循環して使い続ける」
への転換を図り、資源循環型のビル運営を推進



廃棄物の分別促進の取組み

テナント向けリサイクルガイド

入居時から分別ルールを共有し、リサイクル率向上を推進



- ・テナント入居時に「リサイクルガイド」を配布
- ・廃棄物の分別方法やリサイクルの考え方を周知
- ・品目ごとの具体的な分別方法をわかりやすく整理

廃棄物は、適切に分別することで多くが資源として再利用することが可能である一方、分別が不十分な場合はリサイクル率の低下につながる

入居時から継続的な啓発を行うことで、テナント企業やワーカーと協働しながら、廃棄物の削減と資源循環の推進に取組む

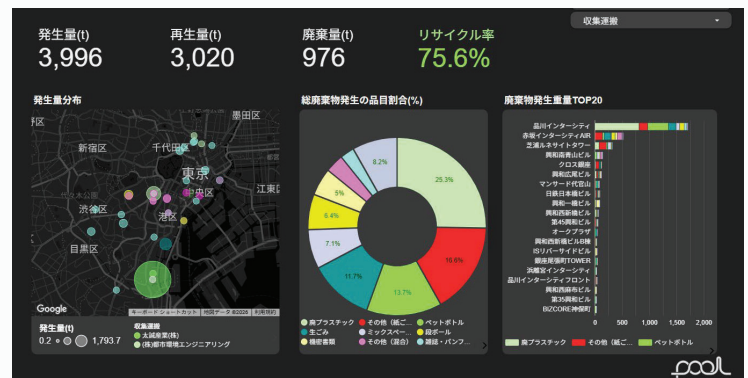
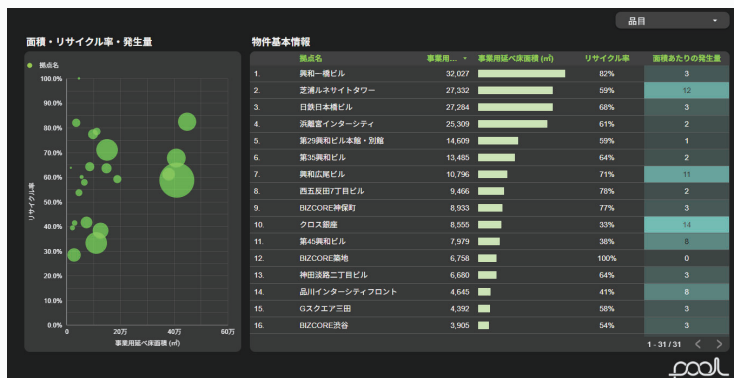
11

廃棄物量の見える化

廃棄物の一元管理システムの導入

廃棄物を「見える化」し、ビル単位からエリア単位へと資源循環を進化させる

- ・ビルから排出される廃棄物を一元的に管理するシステムを導入し、排出量やリサイクル率などのデータを可視化
- ・これまでのビル単位での管理に加え、複数ビルを含むエリア単位や、収集運搬事業者単位での分析が可能
- ・廃棄物の発生要因やリサイクル改善の余地を把握し、より効果的な廃棄物削減施策や資源循環の取組みにつなげていく
- ・現状把握と改善活動を通じて、ビル単体ではなく、エリア全体での環境負荷低減と循環型社会の実現を目指す



12



人と向き合い、街をつくる。

日鉄興和不動産